

筒井迪夫 著

# 森林文化学研究 ～山と木と人の融合～

定価3,500円 (税込み、送料別)

## 林政学の原理とは何か。

それは「山と木と人の融合」の鍵を明らかにすることだと考える。本書は山と木（自然）と人間との融合を図るのが林業政策の本来の在り方と考え、この3者の融合の原理を求めた思考の軌跡である。そして「山と木と人の融合」の歴史を振り返り、鍵は「森林美」であるとの結論に達した。（本書360頁より）

## 主要目次

### 第1章 東京大学農学部演習林報告に投稿した論文

- I. 奈良時代における山作所の管理と労働組織
- II. 平安時代における奈良時代山作所の変質と鎌倉初期における周防杉の成立と活動
- III. 秋田藩における林業育成生産組織と行政の方向
- IV. 近世の林業技術思想（尽地力説）について

### 第2章 正眼短期大学「研究紀要」に投稿した論文

- I. 禅に学ぶ緑の理法—森林利用と生死一如について
- II. 心身の健康とみどり（森林）
- III. 「禁木の制」の森林文化史上の意義について—明治初期の木曾谷山林事件を例として—

### 第3章 多摩美術大学研究紀要に投稿した論文

- I. わが国における森林美学研究の系譜と技術適用の条件
- II. 森林美を重視した森づくり技術の在り方について—事例を中心にした検討—

- III. 森林環境保全政策における森林美学の意義に関する研究—付 国有林における施業実例—
- IV. 岡倉天心を取り巻く五浦六角堂ならびに赤倉山荘付近の森林状態の再現

### 第4章 森林文化研究誌に投稿した論文

- I. 森林文化研究の課題と内容
- II. 鯖の道周辺における森林文化事例
- III. 百里ヶ岳周辺山地における入会林野の管理・利用の特色について—生産と保全の両立の仕組み—
- IV. 近世の里山利用観（事例）

## 著者紹介

筒井迪夫 [ツツイミチオ]

1925年福井県生まれ。東京大学農学部林学科卒業。同大学院修了。1986年定年退官。東京大学名誉教授。元正眼短期大学教授、元多摩美術大学教授。元林政審議会委員。農学博士。

日本林学会賞(1978)、みどりの文化賞(1998)受賞

## 申込書

『森林文化学研究』 \_\_\_\_\_ 冊 申し込みます。

所属：

住所：

氏名：

電話又はE-mail：

申込先

(財)林業経済研究所

住所：東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A

TEL：03-6379-5015

FAX：03-6379-3210

E-mail：[office@rinkeiken.org](mailto:office@rinkeiken.org)

URL：[www.rinkeiken.org](http://www.rinkeiken.org)